

1F 事故からの環境回復を網羅的に分析

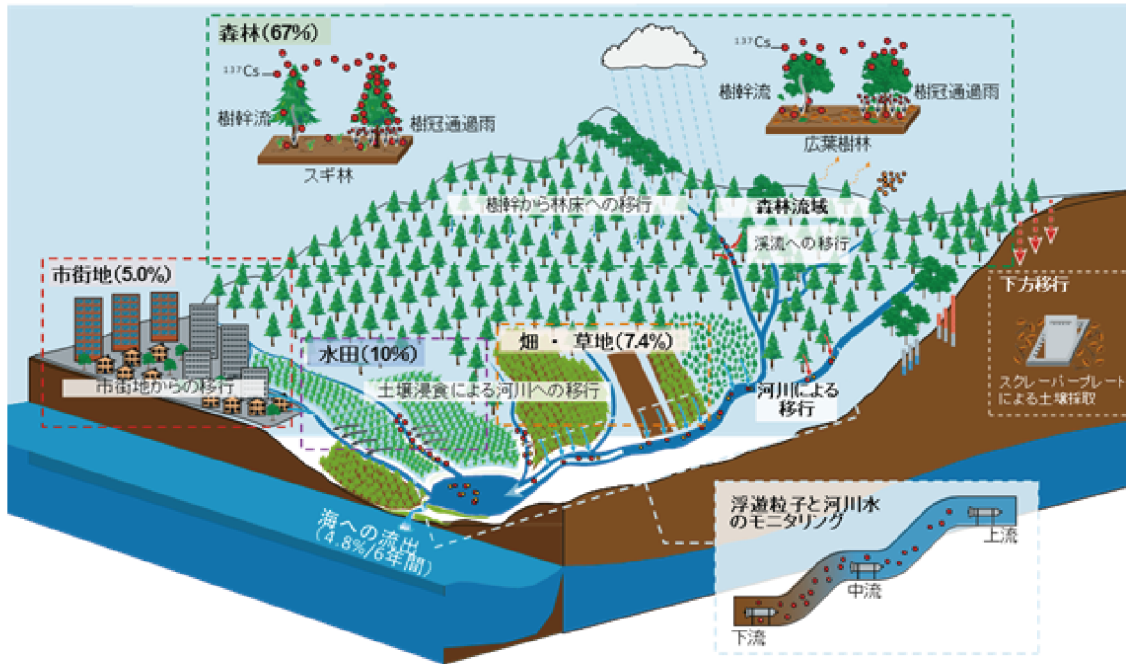
- チェルノブイリより環境回復は大幅に速い -

課題

1F 事故後、多くの研究論文が出され、これまでの知見の集約が必要とされていた。しかし、既存の研究を客観的に総括し、科学的に検証された論文はなかった。

成果

福島陸域環境モニタリングに関する研究論文 210 本以上を網羅的に集約した。特に放射性セシウム 137 による陸域汚染の実態と環境回復の全貌を明らかにした。



1F 事故で放出された Cs137 などの動きを検証

◇森林内の樹木への蓄積

- ・常緑針葉樹：70%→2%
- ・落葉広葉樹：23%→21%
- ・林床への蓄積：表層土壌 2 cm 以内に初期値の 5 割がとどまる
- ・森林から流出する Cs：
チェルノブイリ地域より 1～2 桁低い濃度

◇森林以外の土地

除染作業などで下方移行が速く進行

- ・耕作放棄水田：事故直後の値の 3%
- ・耕作水田：事故直後の値の 10% 事故 3 年後の数値
下方への浸透速度が速い

◇河川 (阿武隈川)

事故直後の 2%←

地面に露出した Cs 量が減少
↓
河川に流入する Cs 量も減少

福島急峻な地形と降水量の多さ
耕作・除染などの人為的活動

表層部分の Cs137 の
低減を速める

1F 事故周辺の陸域の環境回復は、チェルノブイリ原発事故の影響を受けた地域より速い